幼兒教育

第二十四卷・第六號

六月の野へ

出て御覽なさい。この頃の野へ。

やはらかい霞に包みすぎた春の空とも違ぬ、澄みきつた深さに、高く遠い秋の空とも違ぬ、また、烱熱にぎら〳〵と燃えすぎて居る眞夏の空とも違つて、初夏の白い空は廣く明かるく、人になつかしい。

若草の生々しさとも、秋草のみのりとも違ひ、またあの、あえぐ樣な土の吐息にいきれて居る眞夏の草とも違つて、この頃の草野には、見て居る間にもずん〳〵と伸びてゆく樣な、强い成長の力を見せて居る。

五月よりも、しつかりした、七月よりも生き〳〵した、眞に淸新の自然は六月にある。殊に、林綠に、細徑に、小川の岸に、到るところ、野茨の白は其の純淸な香を漂はせて居る。春の花の紅きにも、夏の花の黃なるにもまして、純白そのものゝ强さと、芳芬そのものゝ强さとは、六月の野の飾らざる飾りである。

出て御覽なさい。六月の野に出て御覽なさい。

（倉橋生）